

通常総会・講演大会報告

通常総会・講演大会記事

昭和 55 年 4 月 3 日第 65 回通常総会、名誉会員推挙式、表彰式、特別講演会が開催された。以下にその詳細について報告する。

第 65 回通常総会 第 65 回通常総会は 4 月 3 日午後 1 時より東京大学工学部 2 号館大講堂で開催された。田畑専務理事司会のもと冒頭に荒木会長の挨拶が行われた。

「本日ここに先輩各位、多数の会員諸兄のご出席の下に、また遠来の賓客を迎えて、日本鉄鋼協会第 65 回通常総会ならびに第 99 回講演大会を開催する運びとなりましたことは私の最も喜びとするところであります。

本年より 1980 年代を迎えまして、過ぎし 60 年代、70 年代とは違った新しい時代という感じが強くいたします。時代の進展とともに資源・エネルギーの有限性に対する共通の認識がますます高まり、これに対応する大きな変革が必然とされながらも、具体的な対応策を模索する時期がしばらく続くものと思われまます。

振り返りまして、数年前の第一次石油ショックに際しましては、これを世界で最も犠牲少なく緩和吸収することに成功したわが国の産業経済、とくに鉄鋼業におきましては、会員諸兄の英智と技術力が再び結集され今回の試練も克服しうるものと確信しておる次第であります。

日本鉄鋼協会といたしましてもわが国鉄鋼業を技術面から支える学会としての任務を自覚し、新しい情勢の下における技術の発展向上のため諸事業を強力に推進して参る覚悟であります。会員各位の一層のご協力とご研鑽をお願いいたします。

事業の詳細につきましては細木理事から報告がありますが、昭和 54 年度に新規に始めました ISO (国際標準化機構) TC 17 の事務局業務は関係各社のご理解と各社派遣の事務局員のご努力により順調に進んでおり、新しい国際的責務を果たしております。

昭和 55 年度におきましては、さらに TC 17 の下部機構である SC 1 (分析) の幹事国業務をわが国が引き受けることとなりました。また 9 月には本会主催により「圧延国際会議」が多数の参加を得て経団連会館で開かれます。いずれもわが国の技術水準の高さと会議運営能力が国際的に評価された結果と考えられます。

今回の講演大会の講演発表数は、一般講演 571、ポスターセッション講演 27、討論会講演 37 合計 635 の多数に上り、初めて 600 の大台を越えました。なお、今年秋の講演大会は講演大会として 100 回目に当たり、わが国近代鉄鋼業史に重要な役割を果たした九州地区において開催されます。

本日この総会の直後に、オランダ、エステル社の重役であり、現在英国金属学会 (The Metals Society) の会長をしておられる G. M. カレンフェルス氏と今回来日した中国金属学会使節団の傅団長のお 2 人を名誉会員に推挙することとなりました。両氏の鉄鋼技術におけるご

業績に敬意を表しますとともに、学会活動を通じて欧州および新中国との協力親善関係がますます深められることを念願するものであります。」

以上挨拶の後、荒木会長が議長となり議事に入つた。付議された案件は次のとおりである。

議案第 1 号 昭和 54 年度事業報告、収支決算ならびに財産目録の件

議案第 2 号 昭和 55 年度事業計画ならびに収支予算の件

議案第 3 号 理事、監事ならびに評議員選挙の件

議案第 4 号 定款変更の件

議案第 5 号 本会刊行物の著作権本会帰属の件

議事の進行上、初めに議案第 3 号が始められた。選挙管理委員に佐野信雄君、川上公成君を選び、投票が行われ別室において開票に入つた。続いて議案第 1 号ならびに第 2 号が関連しているので一括議題として事業と会計に分けられた。

昭和 54 年度事業ならびに昭和 55 年度事業計画について細木理事より次の報告がなされた。(詳細は 1248 ページ参照)

「日本の鉄鋼業は、第一次石油危機以来の不況から脱出し、昨年は再び明るさを取り戻しました。しかしながら日本経済は、イラン革命を契機とした第二次石油危機により、オイル問題は、更に深刻の度を強め、加えて国際間の通貨、金融の不安、貿易の不均衡、インフレ、財政赤字など困難な問題をかかえております。

このような経済情勢下にあつて日本鉄鋼協会は研究開発や技術開発の一層の促進を図るため、共同研究体制の充実、技術講座、セミナー等の実施、鉄鋼技術情報体制の整備、国際交流及び、ISO への関与など、多角的な業務活動を行い、産学共同の実を挙げております。

ここに昭和 54 年度事業を報告し、併せて昭和 55 年度の事業計画をご説明申し上げます。

まず、本会の主要事業であります講演大会における講演発表数は、春秋合わせて 1045 件に及び、ここ数年 10% 台の伸び率を示しておりますし、和文会誌「鉄と鋼」の論文投稿数も前年と同水準にあつて順調に推移しております。また欧文会誌「Transactions of Iron & Steel Institute of Japan」も海外から高い評価を受け、内外からの論文投稿数も増加の傾向にあります。今年から春秋の講演大会における講演概要も掲載し、一層の充実を図りました。

また 16 年振りに改編されます「鉄鋼便覧」は、実際の作業又は研究に役立つ代表的なデータを広く集録した実務的な便覧とすることを目指し編集作業を進めてきましたが、7 分冊の第一冊目として第二巻「製鉄、製鋼」を昨年 10 月刊行いたしました。55 年度には、2 冊目、3 冊目として第 3 巻「圧延基礎・鋼板・条鋼・鋼管・圧延設備」の刊行が予定されております。

また西山記念技術講座も東京、岡山、大阪、北九州の各地で9回開かれ、鉄鋼工学セミナーも106名の受講者を得るなど、本会の教育活動として定着しております。

一方、これらの出版物は、複写機の普及から、無断コピー、転載、翻訳など著作権が侵害される実情にあります。著作権問題は各学協会共通の問題でございますので、他の学協会とも協議の上、著作権を本会に帰属させる方向で検討し、本日の議題として上提いたしました。よろしくご賛同下さいますようお願い申し上げます。

次に企業の技術研究の交流の場であります共同研究会は、18部会23分科会の機構により、鉄鋼製造技術全般に関し現場の立場から調査研究、情報の交流を行っております。現在重要視されております省資源、省エネルギー技術、環境保全技術などについても各部会、分科会の立場から検討され、数多くの成果が、報告書として発表され、本会の研究活動の柱となっております。

次に基礎研究であります。日本金属学会、日本学術振興会と本会との3者による鉄鋼基礎共同研究会も着実な歩みを示しており、微量元素の偏析部会と応力腐食割れ部会は5年間の部会活動を終了し、研究成果を報告書にまとめました。昭和55年度は、仮題「融体異相間反応」及び溶融点直下の鋼の力学的性質の2部会を発足させ、既存4部会と共に活発な研究活動が期待されます。

また本会独自の重要基礎研究を推進させるため昭和52年に発足した特定基礎共同研究会では、「原料炭の基礎物性とコークス特性に関する研究」及び「スラグの有効利用に関する基礎研究」などのテーマについて学問的に掘り下げた地道な研究を続けており、成果が実りつつあります。

次に標準化委員会については鉄鋼関連JIS原案の作成、協会規格案の作成、鋼材特性に関する各種データの収集とデータシートの作成、50余に及ぶISO原案の審議、国際共同実験の実施、及びISO国際会議への代表者の派遣など幅広い標準化活動を行っております。

一方、鉄鋼標準試料は、化学分析用、機器分析用等合わせて335種という世界に誇る種類の標準試料を製造、分譲しており鉄鋼分析技術の向上に役立てておりますが、更に本年度は高純度鉄標準試料のほか、世界に例をみない「介在物標準試料」を分譲する予定であります。

クリープ委員会は金属材料技術研究所材料試験部への支援、試験法統一のための共通試験の実施、高温引張データシートの発行など大きな成果を上げてきましたが、昭和55年からは、高温強度研究委員会と名称変更し、複雑な環境下での金属材料の力学的挙動を含めた高温強度問題に力点を移し、活発な研究活動を推進しようとしております。

日本圧力容器研究会においては、米国の同研究会に参加し、材料部会、設計部会、施工部会を他の学協会、技術団体と密接な相互協力のもとに研究活動を進めており、今後の成果が期待されております。

その他材料研究委員会、国際鉄鋼技術委員会、鉄鋼科学技術史委員会においても、それぞれ活発な活動を展開しております。いずれその結果は報告書にまとめる予定であります。

次に、鉄鋼技術情報活動といたしましては、設立3年

目を迎える鉄鋼技術情報センターでは、日本科学技術情報センター(JICST)との協力を保ち、国際会議プロシーディングスの収集・抄録の作成やインデクシングを行いました。JICSTのオンライン端末機の利用も当初の計画を大幅に上廻り、成果を上げつつあります。

また委員会組織も強化され、今後文献データ調査に役立つ情報検索技術の向上、センター図書室の拡充等、情報活動事業の一層の充実が期待されます。

次に新しい事業として、昨年設立されたISO(国際標準化機構)TC17事務局は、わが国鉄鋼業の技術力をバックに、国際的に厳正中立、公正の保持を旨とした業務運営を精力的に行い、各国から信頼を受けております。

本年度は更に、TC17の下部機構であるSub-committee1鉄鋼分析の幹事国に選ばれることになっております。この幹事国業務を遂行するため、新たにISO/TC17/SC1事務局を発足させることとなりますが、事務局設立に当たり御理解と御協力をいただきました鉄鋼各社に対し深甚の謝意を表するものであります。

次に国際交流につきましては、昨年4月第6回真空冶金国際会議、5月に第7回日ソ製鋼物理化学シンポジウム、6月に日本チェコスロバキア合同シンポジウムが開催され、それぞれ多大な成果を収めました。また9月には中国金属学会の招きに応じ、鉄鋼協会学術使節団を派遣致しましたが、両国間のシンポジウム開催に関する協議を行い、「鉄鋼学術合同会議開催に関する協定書」が締結され、今後緊密な技術交流が進められます。なお本日は中国金属学会使節団傅先生以下8名の方々を本席にお迎えしております。55年度は5月に日本ベネズエラシンポジウム、6月に日独シンポジウム、7月に日豪シンポジウムがそれぞれ海外で開催されますが、9月には本会主催の圧延に関する国際会議が東京で開催され、国際的に高いレベルの技術情報の交換が期待されます。

以上事業の要点をご説明申し上げましたが、詳細につきましてはお手元の資料をご覧下さるようお願いいたします。

終わりにわが国の鉄鋼業は、厳しさを増す国際環境の中にあつて鉄鋼科学技術の役割は益々増大しており本会の果たすべき使命も極めて重大であります。これらの遂行に当たり維持会員各社の厚い御支援御理解をいただいておりますことに厚く御礼申し上げますと共に、会員の皆様の一層のご研鑽、ご協力をお願い致しまして私の説明を終わります。」

引き続き矢野理事より昭和54年度収支決算ならびに昭和54年度収支予算について報告がなされた。(詳細は1264ページ参照)

決算

まず一般会計からご報告申し上げます。

決算の結果、収入は674,558,437円となりました。本年度は会費収入、文部省補助金、鉄鋼標準試料および会誌刊行物等の増収、特に会誌刊行物におきましては鉄鋼便覧全6巻7冊の内の第1冊が刊行しましたので収入予算に対し46,583,681円の増収になりました。一方、支出の部におきましての決算の結果は、641,668,051円でありまして、支出予算に対し13,693,630円の支出超過となりましたが、収入増の源泉であります鉄鋼便覧の買

い上げ費の増加が含まれております。その他は極力諸経費の節約に努めまして当期剰余金 32 890 386 円をもつて昭和 54 年度を終了することができました。

(剰余金処分)

次に剰余金の処分でございますが、その金額すなわち 32 890 386 円を次年度へ繰り越したいし昭和 55 年度財政を充実いたしたくここに提案いたします。

(財産目録)

なお、決算の結果、昭和 54 年度末現在の一般会計保有の純財産は、199 577 263 円でございます。

(別途資金会計)

別途資金会計は表彰ならびに事業資金、渡辺義介記念資金ほか 12 の会計を有しており、それぞれの目的に応じ、特別資金運営委員会、理事会の議を経て支出し、または蓄積されております。

(補助金事業等会計)

次に補助金事業等会計につきましては、政府の補助金、委託金あるいは他団体の分担金等により運営しております。特に 54 年度からは ISO/TC 17 (国際標準化機構・スチール) の事務局を当協会が引き受けましたので特別会計として増設しここに示しました。

予 算

(一般会計)

一般会計の収入の部では、前期繰越金を含め総額 754 545 386 円を計上いたしました。本年度も鉄鋼標準試料、参加出席費、会誌刊行物等は、高い努力目標を掲げましたほか維持会員につきましても会費の値上げをお願いすることといたしました。各位の一層のご理解をお願い申し上げる次第でございます。

支出の部についてご説明申し上げます。

昭和 55 年度の予算編成作業に入りました時点では鉄鋼業界をとりまく環境は相継ぐオイル及び諸資源の価格上昇等予断を許されず「事業規模を前年度並み」といたし、前年度に引き続き大変厳しい方針といたしました。

その中で特にご説明申し上げますのは、図書の出版事業であります。永年準備を続けて参りました全面改訂の「鉄鋼便覧全 6 巻」の出版につきましては、その内の第 2・3 巻を予算化いたしました。

また鉄鋼技術情報センター事業を充実するほか、おおむね継続事業でございまして内容の充実に重点をおき、極力節約を計り、予備費を含め 754 545 386 円を計上いたしました。

幸にして前期繰越金が当初の予想を上回つてまいりましたので予備費を 21 590 386 円とし、諸物価値上げ等のほか不測の出費に備える体制をとることができました。

(別途資金会計)

別途資金会計の予算は例年通り特別資金運営委員会の議を経て事業計画をもとに編成いたしました。

(補助金事業等会計)

続きまして補助金事業等会計の収支予算でございますが、これらはすべて継続事業でございまして詳細は資料の通りでございます。

最後に、本年度も予算の執行には細心の注意をもつてあたり、諸経費節約を旨として運営してまいり所存でございますので、会員各位におかれましては一層のご協力

を賜りたくお願い申し上げまして会計報告を終わります。

以上議案説明の後、安藤監事より監査の結果報告がなされ、満場一致をもつて議案第 1 号、2 号が承認された。

続いて議案第 4 号に入り、細木理事より鉄鋼技術情報センターおよび ISO TC17 事務局の開設等にとりまう本会事業の拡充による定款中一部変更が次のとおり承認された。

定款第 5 条第 1 項第 3 号

(旧)「調査、研究、建議そのほかの公益事業」

(新)「調査、研究、情報の収集および提供、標準化、建議そのほかの公益事業」

続いて議案第 5 号本会刊行物の著作権の本会帰属について田中理事より説明があり、本会に著作権が帰属することが決定した。

引き続き、先に行われた理事、監事、評議員の選挙の開票結果がまとまり、理事 15 名、監事 1 名、評議員 123 名の各候補者全員が当選した旨選挙管理委員より報告があつた。ここで総会は休憩に入り、別室で臨時理事会が開かれ会長、副会長 1 名、常務理事の互選が行われた。

総会が再開され議長より会長に武田喜三理事、副会長に井上道雄理事ならびに常務理事に三井太佑理事が当選された旨報告があり、第 65 回通常総会を終了した。

終了は、吉田道一常務理事の退任に対する謝意と、本会の招きにより来日された中国金属学会代表国 (傅団長ほか 9 名) の紹介が会長より行われた。

名誉会員推挙式 次の 2 名が新名誉会員に推挙された。(推挙理由口絵参照)

Mr. G. W. van Stein Callenfels (The Metals Society 会長)

傅君詔君 (中国金属学会常務理事副秘書長)

特別表彰式・褒賞授与式 続いて褒賞授与式が行われた。(略歴は口絵参照)

本会名誉会員、東北大学名誉教授 的場 幸雄君

表彰式 続いて表彰式に移り、下記のとおり各賞の授与が行われた。

渡辺義介賞 岩村 英郎

西山賞 松下 幸雄

服部賞 加藤 健

香村賞 有川 正康

渡辺三郎賞 池野 輝夫

俵論文賞 研野 雄二

中村 展

日下部 俊

山崎 道夫

山口 重裕

山地 健吉

小田 尚輝

大石 康夫

須賀田正泰

雀部 実

三原 豊

鈴木 洋夫

安倍 勲

木下 豊

原田 広史

西村 哲

渡辺義介記念賞

大日方達一

近藤 豊

鈴木 桂一

原田 利夫

矢ヶ崎秀世

西山記念賞

伊藤 六仁

岸 輝雄

下村 泰人

田口 和正

京井 勲

渋谷 芳夫

土手 彬

堀江 重栄

柳本 龍三

荻野 和巳

木下 和久

水渡 英昭

寺崎富久長

黒津 亮二

杉山 信明

中野 平

益子 美明

吉谷 豊

菊池 淳

木村 勲

泉田 和輝

針間矢宣一

丸橋 茂昭 森 久 吉田平太郎
特別講演 表彰式に続き次のテーマによる特別講演が行われた。

- 1) 「回顧と期待」 俵賞受賞 的場幸雄君
- 2) 「日本鉄鋼業の技術競争力」 渡辺義介賞受賞 岩村英郎君
- 3) 「鉄冶金学研究室の 34 年」 西山賞受賞 松下幸雄君
- 4) 「The Growth of Steelmaking Technology and Its Challenges Ahead」
 新名誉会員 G. W. van Stein Callenfels 君

講演大会

講演大会は 4 月 3 日, 4 日, 5 日の 3 日間東京大学工学部 15 会場に分かれて行われた。

講演大会 講演件数は製鉄関係 96 題, 製鋼関係 147 題, 加工関係 69 題, 性質関係 259 題の計 571 題の講演が 14 会場にわかれて行われた。今大会における講演件数は過去最高の件数となった。

討論会 一般講演の他, 次の 6 テーマ 31 題の講演による討論が活発に行われた。

1. 高炉用コークスの性状より見た石炭組織の評価

座長 美浦 義明
 2. ブルームおよびビレット連铸の現状と問題点

座長 飯田 義治

3. UO 鋼管成形技術の諸問題 座長 大須賀立美

4. 海洋構造物用鋼材の問題点 座長 中西 昭一

5. 連铸材の表面処理の問題点 座長 安藤 卓雄

6. 鉄鋼業の機器分析における今後の課題

座長 井樋田 睦, 副座長 安田 浩

ポスターセッション 4 月 4 日, 5 日の 2 日間第 15 会場において開催された。件数は製鉄 6 題, 製鋼 7 題, 加工 6 題, 性質 8 題であつた。

懇親会 懇親会は 4 月 3 日の午後 6 時より神田学士会館で開催された。木村啓造金属学会理事司会のもと、両会会長の挨拶に始まり、各地から参集した会員諸氏の間で歓談がくりひろげられた。

ジュニアパーティ 4 月 4 日午後 6 時より池之端東天紅バイキングルームで開催された。今回は中国金属学会代表団を迎え、郡司講演大会分科会主査につづいて代表団団長の挨拶に始まり、中国代表団をかこみ、若手技術者、研究者を中心に自由に懇談がなされ、親交を深めた。